

中国・瀋陽師範大学短期プログラム

北海道教育大学函館校
地域協働専攻 国際協働グループ
2年 佐藤麻耶

私は平成28年2月27日から3月12日までの2週間、中国・瀋陽師範大学で行われた短期研修プログラムに参加しました。私は中国語の勉強をしたことがなく、中国に関する授業も受けたことがない状態で参加しました。ただ、漠然と中国に興味があり、行ってみたいと思っていました。また、将来英語科教員になるに向けて多くの経験をし、同じアジアである中国について知りたい。という理由から参加しました。

瀋陽師範大学では、平日の午前中は毎日中国語を学びました。最初にクラス分けのテストがありました。口頭でいくつかの質問を受けました。最初は「あなたの名前は何ですか？」という簡単な質問にも答えることができませんでした。今回の短期研修に参加した教育大学の学生は皆、一番易しい中国語のクラスに配属されました。同じクラスには、韓国、ロシア、イランなどからの留学生もいました。全員最初は、挨拶すら中国語でできませんでした。そのため、中国語の基本的な発音の仕方から学びました。授業は基本、英語で進められました。リスニング、スピーキング、ライティングに分かれていて、毎日2科目ずつ学びました。毎日とにかくたくさん教科書を読んだり、文を入れ替えて読んでみたり、ペアで会話をしたりと、パターンプラクティスが主流でした。これだけ徹底して言語だけを学ぶのが、中国のスタイルなのだと実感しました。この学習スタイルなのであれば、瀋陽師範大学の日本語学科の学生が、日本語を上手に話せることに納得できます。2週間経つ頃には最初はできなかった自分の名前を答えたり、自分や家族のことを話したりすることができるようになりました。

中国語の授業以外にも中国の茶道、太極拳、伝統楽器の授業も受講しました。

中国式の茶道は日本よりも、作法の数が多くとても驚きました。先生はその中からかいつまんで、いくつかの作法を教えてくださいました。実際にお茶を入れる体験もしました。何回にも分けて入れなければいけなく、慣れない作法に戸惑いました。中国茶の種類は思っていたよりも多く、どれも香りがよく、試飲したお茶はどれもおいしかったです。

太極拳はまさに、テレビで見たことのある、そのものでした。実際に体験できてうれしかったです。ゆっくりと体を動かすのは普段、行わない運動なので大変でしたが、本場の先生に習うことができ、貴重な体験となりました。

伝統楽器の授業では、音楽科の学生のソロ、アンサンブル、全体合奏を聴きました。見たことがない楽器がほとんどでした。いくつかの楽器を実際に触ったり、吹いたりすることができました。中国人学生と交流しながら、体験し、学ぶことができました。



中国の茶道の道具



伝統楽器の授業

私達日本人には瀋陽師範大学の日本語学科の学生がボランティアとして付いてくれて、食事をしたり、買い物をしたりしました。午後からはほとんど授業がなかったので、瀋陽の市街に出て案内をしてもらいました。中国は日本と車線が反対で、街並みも見たことのない漢字の看板ばかりで、最初は外を歩くのが怖かったです。観光地ではない、地元の人が普段買い物をするスーパーやデパートにも行きました。日本には売っていない食材がたくさんありました。日本にも売っている、多国籍企業のお菓子などでも、すべて漢字表記になっているので、同じものなのに違うように感じて新鮮でした。

大学の敷地内にはたくさん寮がありました。私達も大学の寮で2週間生活をしました。多くの学生が寮から出ていくのを見て私は、中国人学生に何人入寮しているのか尋ねたところ、学生全員が寮で生活していると教えてくれました。中国の大学生は、どんなに実家が大学の近くにあっても必ず大学の寮に入らなければいけないことに驚きました。そのため、大学の敷地内にはビルのような寮がいくつもあり、スーパー、文房具屋、美容室、飲食店がたくさんありました。大学の敷地から出なくても生活ができてしまいます。中国の寮は日本とは違い、食事は出ません。学生たちは外に食べに行ったり、テイクアウトをしたりするそうです。食材を買ってくるよりも、外で済ませたほうが安上がりだそうです。日本の大学とは大きく違う生活習慣にとっても驚きました。敷地内のレストランは、中華料理はもちろん、和食のレストランや、おしゃれなカフェなどもありました。たくさんのお店があったので、飽きずに生活ができそうでした。また、寮にはお風呂が付いていないそうです。私達の宿泊していた寮にはありましたが、中国人学生の寮にはついていないそうです。敷地内にある銭湯のようなところに毎回通っている、と言っていました。日本との違いに驚きっぱなしでした。

事前にもっと中国について、中国語について学んでおけばよかったと思いました。中国に行き学んでいるうちにどんどん中国に興味を抱き、もっと学びたいと感じました。2週間では物足りないと感じました。中国について予備知識があれば、中国での学びがより深まったと思いました。中国語も発展的なレベルのクラスに入ることができれば友達になった中国人学生とコミュニケーションを取ることができたと思いました。

今回の研修では写真や、資料だけではわからない、中国について実際に肌で感じる事ができました。2週間という短い時間ではありましたが中国での経験は、将来英語科教員になる上で、自分にとってとてもプラスになるものだと感じました。英語科教員だからといって英語圏だけの知識では視野が狭くなってしまいます。同じアジアである中国について知ることができ、自分の視野が少しですが広がり、多角的な教育ができるようになると思います。